

HIVの新規感染を防ぎ、 エイズ終結と将来のパンデミックに備える前例のない機会

ジュネーブ 2023年5月24日 資金確保の強化と効果が証明されているHIV予防新技術の普及、HIVサービスへの障壁の打破により、この機会を最大限に活かすことを国連共同エイズ計画（UNAIDS）が各国に求めました。いま行動すれば、エイズ終結を達成し、現在および将来のパンデミックへの対応が可能になります。

第76回世界保健総会に際して世界HIV予防連合^(注1)のハイレベルイベントが開かれ、各国の保健大臣や保健分野の指導者、専門家らが参加しました。不平等を広げパンデミック拡大の原因となっている政策や法律に対処するための政治的関与を強めるとともに、追加的資金の確保と効果的なHIVプログラムの大規模展開を目指してUNAIDSがこのイベントを主催しました。

(注1) Un aids - Global HIV Prevention Coalition

「HIV予防の機会がこれほど大きくなったことはありません」とUNAIDSのウィニー・ビヤニマ事務局長は述べました。「ツールやテクノロジーはあるのです。ただし、広く利用できる状態にはなっていません。この機会を活かすには、大胆なリーダーシップとHIV予防への新たな投資により、効果的な予防の選択肢を必要とするすべての人が、それぞれの選択肢を利用できるようにしなければならぬのです」

UNAIDSのIn Danger 報告書^(注2)によると、2021年の新規HIV感染者数は世界全体で150万人となっており、ターゲット（50万人）の3倍以上でした。2025年には新規HIV感染者数を37万人未満に減らす新たなターゲットが示されています。新ターゲット達成には、各国が2010年比で82.5%の削減を果たす必要があります。HIVプリベンション2025ロードマップ^(注3)の10段階ハウツーガイドはその道筋を示すものです。

(注2) Full report — In Danger: UNAIDS Global AIDS Update 2022 | UNAIDS
サマリー日本語版訳 [global_aids_update2022_overview.pdf](https://api-net.jfap.or.jp/status/world/booklet063.html) (jfap.or.jp)

(注3) HIV PREVENTION 2025 ROAD MAP - Un aids
日本語版訳 <https://api-net.jfap.or.jp/status/world/booklet063.html>

「おそらくこれはエイズパンデミック史上最大のチャンスです。HIV予防を再考し、公平かつ影響力があるかたちで実行しなければなりません」と世界HIV予防連合のミッチェル・ウォーレン共同議長は語っています。

世界HIV予防連合が優先対象とする28カ国のUNAIDSデータを分析したところ、5カ国（コートジボワール、ジンバブエ、マラウイ、レソト、イラン）では、2021年の年間新規HIV感染者数が2010年当時より61%以上減少していました。成果は達成されているのです。また、40%以上減少している国も、さらに12カ国ありました。

ただし、UNAIDSのデータによると、新規HIV感染者数は世界の38カ国で増加し、その中には大規模な流行になっている国もあります。この憂慮すべき傾向は、予防連合を拡大し、一段と予防対策に力を入れる必要があることを示しているのです。

UNAIDS・世界HIV予防連合の2022年国別スコアカード^(注4)によると、サハラ以南のアフリカでは、HIV感染率が中程度から高程度の地区の41%にしか、思春期の少女と若い女性に焦点を当てたHIV予防プログラムがありません。

(注4) 2022 Prevention Scorecard Brochure v5 final (un aids.org)

また、予防連合の重点対象国のうち利用可能なデータがある国でみると、2021年にHIV予防サービスを受けていたセックスワーカーは63%、ゲイ男性など男性とセックスをする男性は49%、薬物注射使用者は36%にとどまっていたこともスコアカードは示しています。大勢を占める医療サービス提供者の間の根強い偏見やキーポピュレーションの犯罪化、有害な法律の執行、ジェンダーに関する障壁や構造的な社会障壁が、キーポピュレーションのHIV予防サービス利用をいまなお妨げています。

「エビデンスに基づき、人権を尊重して、キーポピュレーションの人たちが関与できるHIVプログラムには十分な投資が行われず、必要な規模にまったく届いていません。たとえば、薬物使用者のうち基本的なハームリダクションのサービスが受けられる国に住んでいる人は全体のわずか2%です」と薬物使用者国際ネットワークのジュディ・チャンは指摘しています。「公衆衛生の論理ではなく、いわゆる道徳的価値観に基づいて投資を続ければ、グローバルヘルスは失敗します。各国がHIV予防とコミュニティシステムに十分な投資を行う必要があるのです」

コンドーム、PrEP（感染予防服薬）、自発的男性器包皮切除の普及には依然、大きなばらつきがあります。コンドームの配布が必要量の80%を超えているのはウガンダとジンバブエだけでした。UNAIDSのデータによると、いくつかの国で2015年以降、コンドーム使用の低下が示唆され、この減少傾向を止めて逆転させることが緊急課題になっています。重点28カ国におけるPrEP利用者は急速に増加しているものの、世界全体でみると絶対数は依然として少ないのです。1000万人以上という目標に対し、2021年末時点での利用者数は150万人にとどまっています。

これまでの研究によると、自発的男性器包皮切除は、男性のHIV感染を最大60%予防できることが示されています。HIV予防目的でこの手術を受ける男性は、2017～2019年の間、一貫して年間400万人を超えていたのに、2020、2021年には40%の減少となり、2021年に手術を受けた人は280万人でした。世界エイズ戦略2021-2026^(注5)で設定された目標を達成している国はエチオピア、タンザニア、ザンビアのみで、焦点を当てなおす必要があります。

(注5) Global AIDS Strategy 2021-2026 — End Inequalities. End AIDS. (unaids.org)
序文・要旨日本語仮訳 <https://api-net.jfap.or.jp/status/world/booklet047.html>

このデータ分析は、各国のHIV予防プログラムの期待できる成功事例と、根強く存在するギャップの両方に焦点を当てています。新規技術の開発を伴ったいくつかの国の成功事例は、HIV感染を防ぎ、エイズ終結を実現し、パンデミックへの備えと対応を強化するための協調行動に向けて、またとない機会に道を開くものです。